

住用町内学校の再編について

～住民説明会資料～

資料1 住用町内学校の在り方検討委員会設置の経緯

住用町は国勢調査の人口で、昭和30年には、4,133人の人口に対し、平成17年には、1,784人、令和2年の国勢調査では、1,188人と約3,000人の人口が減少している。とりわけ、若者の地元流出は、少子高齢化の問題を進展させ、産業の衰退や学校存続など地域の活力低下を招き、様々な分野の問題へと進展させています。

小学校では、すべての学校が過小規模校(3校)であり、うち1校が休校の状態にあります。各学校各学年児童数は一桁で全学校の小学校児童数合計でも**令和7年度で30人**と数年来、**複式学級での学級編成**を余儀なくされております。

中学校でも、すべての学校が過小規模校(3校)であり、うち1校が令和7年度末で休校となります。各学校各学年生徒数は一桁で全学校の生徒数合計でも**令和7年度で13人**であり、専門の免許を持っている**専任教員すべての教科では配置できておらず**、教科指導の質の低下のおそれがあります。

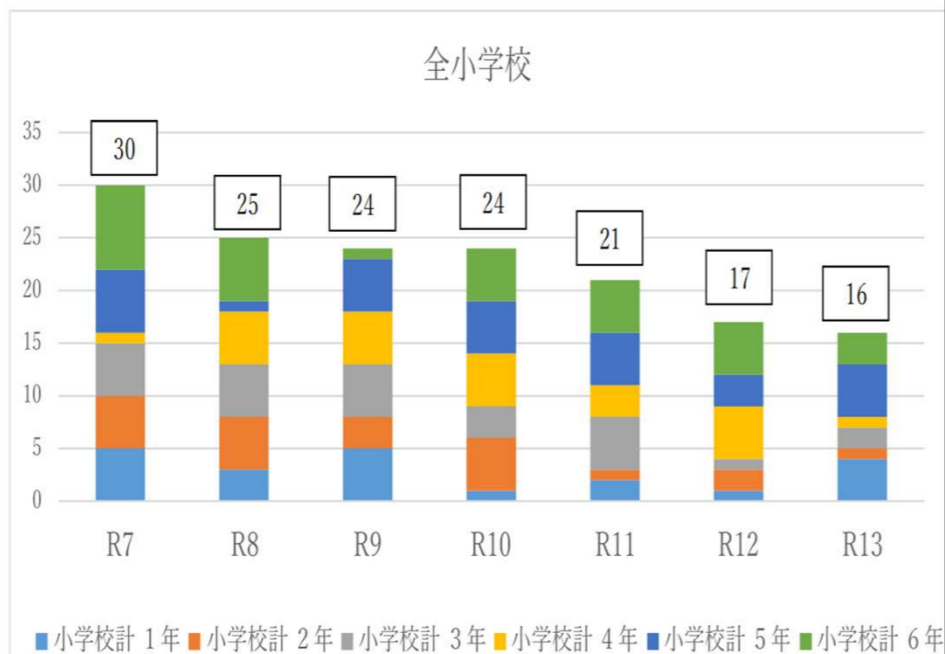
そのような中、令和6年4月に住用町地域協議会から報告書が提出され、その内容は、「小学校・中学校の適正規模・適正配置を検討するとし、保護者へアンケート調査の実施を要望するものでございました。

こうした現状を踏まえ、令和6年8月に保護者に対し「学校再編に関するアンケート調査」を実施し、その後、アンケート調査の結果や地域からの声もあり令和7年度より今後の住用町内学校の在り方について、幅広い見地から調査及び検討いただきたく「住用町内学校在り方検討委員会」を立ち上げ、教育長から諮問書が提出されております。

資料2 町内全小学校・中学校の児童生徒数の推移

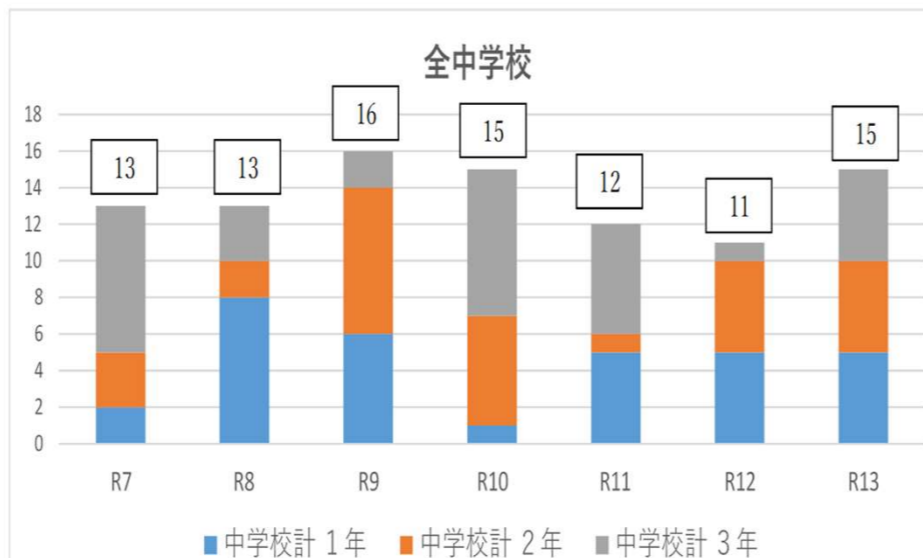
(1) 全小学校

- 令和7(2025)年の全児童数は30人です。その後、下降し20人台で推移します。令和13(2031)年の全児童数は、16人の予測です。



(2) 全中学校

- 令和7(2025)年の全生徒数は13人です。その後はほぼ横ばいで推移し、令和13(2031)年の全生徒数は、15人の予測です。



資料3 令和7年度以降の住用地区児童生徒数推移

【小学校】

学校名	学年	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
住用小	1年	2	1	3	1	1	1	2
	2年	4	2	1	3	1	1	1
	3年	2	4	2	1	3	1	1
	4年	1	2	4	2	1	3	1
	5年	1	1	2	4	2	1	3
	6年	5	1	1	2	4	2	1
	計	15	11	13	13	12	9	9
東城小	1年	3	2	1	0	1	0	2
	2年	1	3	2	1	0	1	0
	3年	3	1	3	2	1	0	1
	4年	0	3	1	3	2	1	0
	5年	5	0	3	1	3	2	1
	6年	3	5	0	3	1	3	2
	計	15	14	10	10	8	7	6
市小	1年	0	0	1	0	0	0	0
	2年	0	0	0	1	0	0	0
	3年	0	0	0	0	1	0	0
	4年	0	0	0	0	0	1	0
	5年	0	0	0	0	0	0	1
	6年	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	1	1	1	1
合計	30	25	24	24	21	17	16	

【小学校 学年計】

学年	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
1年	5	3	5	1	2	1	4
2年	5	5	3	5	1	2	1
3年	5	5	5	3	5	1	2
4年	1	5	5	5	3	5	1
5年	6	1	5	5	5	3	5
6年	8	6	1	5	5	5	3
計	30	25	24	24	21	17	16

【中学校】

学校名	学年	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
住用中	1年	0	5	1	1	2	4	2
	2年	1	0	5	1	1	2	4
	3年	4	1	0	5	1	1	2
	計	5	6	6	7	4	7	8
東城中	1年	2	3	5	0	3	1	3
	2年	2	2	3	5	0	3	1
	3年	3	2	2	3	5	0	3
	計	7	7	10	8	8	4	7
市中	1年	0	0	0	0	0	0	0
	2年	0	0	0	0	0	0	0
	3年	1	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0	0	0
合計	13	13	16	15	12	11	15	

【中学校 学年計】

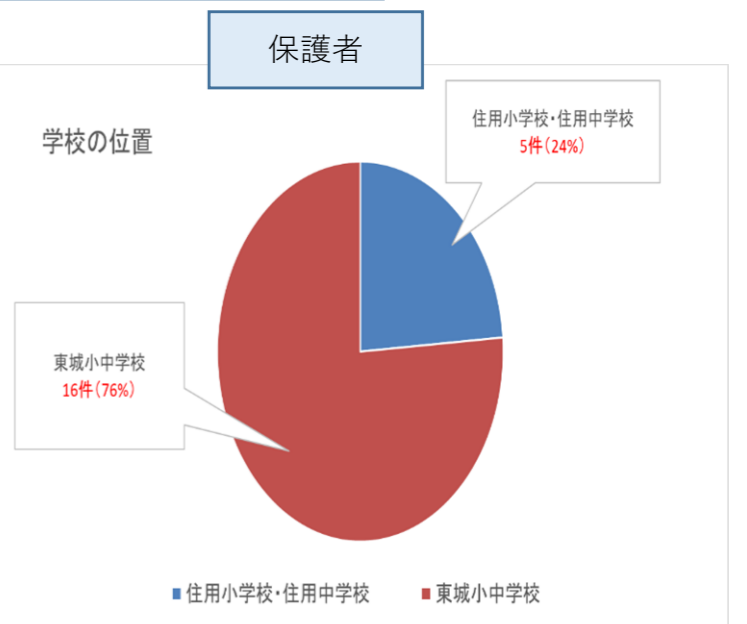
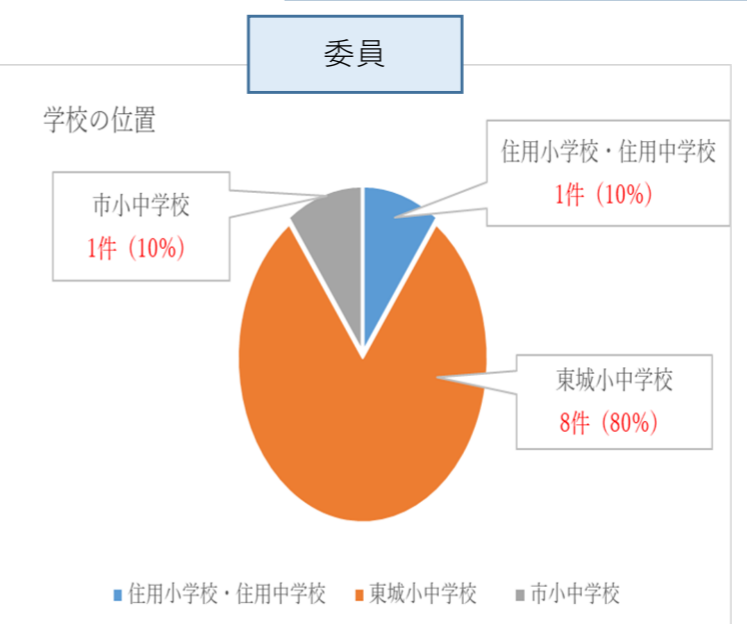
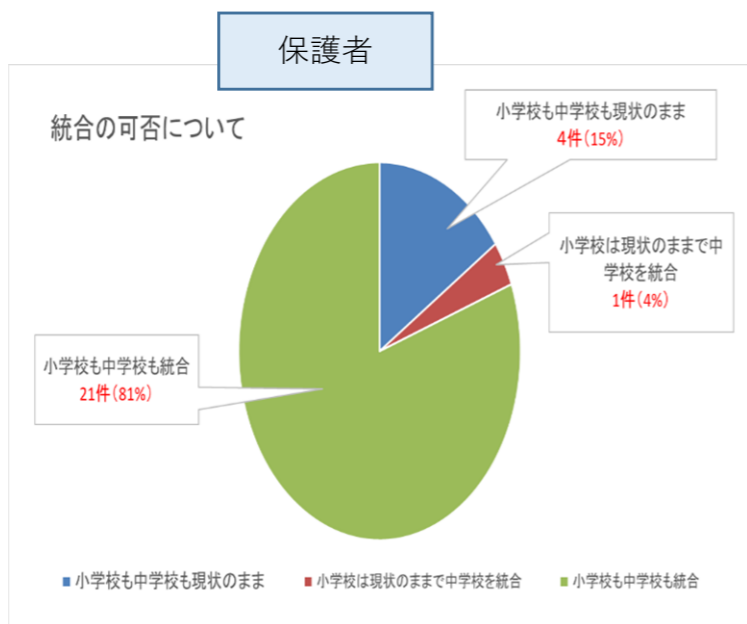
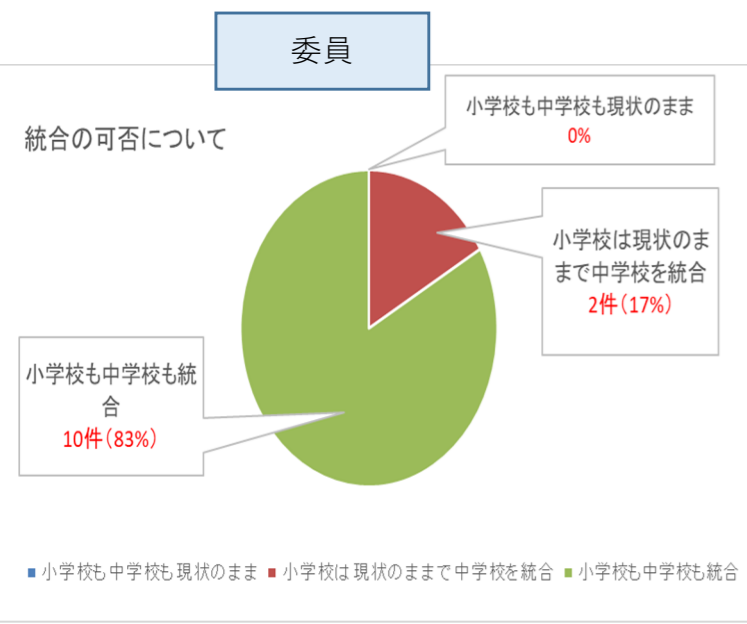
学年	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
1年	2	8	6	1	5	5	5
2年	3	2	8	6	1	5	5
3年	8	3	2	8	6	1	5
計	13	13	16	15	12	11	15

住用町内学校の再編について

～住民説明会資料～

資料4 アンケート調査結果①(問1 統合の賛否)

資料5 アンケート調査結果②(問3 学校の位置)



検討委員会委員に対し実施した内容では、「小学校も中学校も現状のまま」が0件(0%)、「小学校は現状のままで中学校を統合」が2件(17%)、「**小学校も中学校も統合**」が**10件(83%)**であった。

検討委員会委員に対し実施した内容で、どの小学校・中学校に統合が望ましいかについての問いでは、「住用小学校・住用中学校」が1件(10%)、「**東城小中学校**」が**8件(80%)**、「市小中学校」が1件(10%)であった。

また、保護者アンケートでは、「小学校も中学校も現状のまま」が4件(15%)、「小学校は現状のままで中学校を統合」が1件(4%)、「**小学校も中学校も統合**」が**21件(81%)**であった。

また、保護者アンケートでは、「住用小学校・住用中学校」が5件(24%)、「**東城小中学校**」が**16件(76%)**であった。

いずれの結果からも、回答者の8割を超す「小学校も中学校も統合」が望ましいとの結果が出た。

いずれの結果からも、回答者の7割を超す統合後の新学校位置に「東城小中学校」が望ましいとの結果が出た。

主な意見として

- これからの予測困難な時代を生き抜くために身に付けたい力の1つとして他者との協働力・連帯力がある。統合することで、一人でも多くの子と関わるができるから。
- 小学生も中学生も今のままでは、人数が少なすぎると思います。統合する事で少しでも人数が増えるので、コミュニケーション能力も身につくと思います。
- 同じ年の友との関わりは必要。
- 多くの人数でコミュニケーションを図ることができ、社会性が養われやすいため。
- 心身ともに自立した社会人へと成長する過程として位置付けられる小中学校生活と認識した時、その環境は、より多くの人と関わるのできる日常生活であることが望ましいと考えるから。
- 児童生徒が多ければ多いほど協調性も身につくと思いますし学習面での競争し合える仲間がいたら学習にも力がつくかもしれないと思い選びました。

主な意見として

- 小・中学校統合にあたり9～10の教室が必要であり、そのキャパシティを担えることが東城小中学校と判断したから。現在も小中併設校として存立しているから。プールがあるから。
- こども園ができた時に近くに学校がある方が、災害や防犯、いろいろな面から考えてありがたい。
- 学童が近い。プールもある。来年近くに保育施設もできるので近場で一気にお迎えができ親の負担も減る。
- 立地の環境や周辺の環境・設備を考えた時(学童)行事の開催においても良い環境だと思うから。
- プールや学童などもあるし、こども園もできます。小学校、中学校、こども園が近くにあることで緊急時など保護者が行動をとりやすくなると思います。